

新型コロナウイルス（変異株）感染者の状況について

県内の新型コロナウイルス感染症における変異株の状況について、県環境保健センターのゲノム解析により48例検査を行い、44例がオミクロン株BA.5系統、1例がオミクロン株XBB系統、3例については、それぞれ県内初となるオミクロン株BQ.1.1系統、オミクロン株BN.1系統、オミクロン株XBC系統の感染者でしたので、公表します。

個人の基本的な感染予防策としては、変異株であっても、従来と同様に、3つの密の回避、特に会話時のマスクの着用、手洗いなどの徹底が推奨されますので、県民の皆様におかれましても、より一層徹底し対応していただくようお願いいたします。

なお、報道に際しましては、感染者本人や御家族などが特定されないよう、個人情報保護に御配慮ください。

○ オミクロン株XBB系統の感染者の発生状況

症例	年代	医療圏	性別	経過
2	50代	鹿児島	女性	10月下旬陽性判明

○ オミクロン株BQ.1.1系統の感染者の発生状況

症例	年代	医療圏	性別	経過
1	20代	鹿児島	男性	10月下旬陽性判明

○ オミクロン株BN.1系統の感染者の発生状況

症例	年代	医療圏	性別	経過
1	20代	鹿児島	女性	10月中旬陽性判明

○ オミクロン株XBC系統の感染者の発生状況

症例	年代	医療圏	性別	経過
1	60代	始良・伊佐	男性	10月下旬陽性判明

【添付資料】

別紙1：鹿児島県内における変異株の状況について（11月11日時点）

別紙2：主なオミクロン株亜系統の種類と鹿児島県内での確認状況について

連絡先	
鹿児島県くらし保健福祉部	
新型コロナウイルス感染症 感染防止対策課	
参 事	099-286-3375
主 幹	099-286-3416

鹿児島県内における変異株の状況について(11月11日時点)

 が今回発表分

1 ゲノム解析による確定数(国立感染症研究所, 県環境保健センター)

ゲノム確定日	確定数	オミクロン株(B.1.1.529)								
		BA.1系統	BA.2系統	BA.2.12.1系統	BN.1系統	XBB系統	XBC系統	BA.4系統	BA.5系統	BQ.1.1系統
R3/2/1~R4/5/26	1,280	732	548							
5/27~6/2	95	4	91							
6/3~6/9	94	1	93							
6/10~6/16	94	2	92							
6/17~6/23	94	1	90	1					3	
6/24~6/30	95		87	3					8	
7/1~7/7	91		60						31	
7/8~7/14	96		26	5					70	
7/15~7/21	96		16	3					80	
7/22~7/28	94		15	8					79	
7/29~8/4	95		19					1	75	
8/5~8/11	96		11	1				1	84	
8/12~8/18	95		20	1				2	73	
8/19~8/25	96		6					2	88	
8/26~9/1	96		4	1				3	89	
9/2~9/8	95		2						93	
9/9~9/15	95		3						92	
9/16~9/22	96								96	
9/23~9/29	96								96	
9/30~10/6	96							1	95	
10/7~10/13	48								48	
10/14~10/20	48								48	
10/21~10/27	48		1			1			47	
10/28~11/3	48								48	
11/4~11/10	48		3		1	1	1		45	1
合計	3,325	740	1187	23	1	2	1	10	1388	1


※ これまでの累計は、上記合計にアルファ株の638例、デルタ株の663例、R.1の98例を加えた数になる。

主なオミクロン株亜系統の種類と鹿児島県内での確認状況について

令和4年11月11日

系統名		区分	感染性・重症度・免疫逃避	県内での 確認数 (9月30日以降)	県内での ゲノム割合 (9月30日以降)	国内外の 検出状況 (11月4日時点)
BA.5 系統	BA.5	-	<ul style="list-style-type: none"> ○ BA.2と比べて、免疫逃避の可能性 ○ BA.2と比べて、感染者増加の優位性 ○ BA.2と比べて、重症度の増加は指摘されていない 	330件	98.2%	世界的に 主流
	BQ.1.1	BA.5の 亜系統	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免疫逃避の可能性 ○ 感染・伝播性や重症度は不明 ○ CDCによるとBQ.1.1を含むBQ.1の感染者の割合は 米国で35%程度まで増加しているとのこと 	1件	0.3%	米国, 英国, フランス で主に検出 国内では 9件確認
BA.4 系統	BA.4.6	BA.4の 亜系統	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免疫逃避の可能性 ○ 感染・伝播性や重症度は不明 	1件	0.3%	米国, 英国, カナダ で主に検出
BA.2 系統	BA.2.75	BA.2の 亜系統	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免疫逃避の可能性 ○ 感染・伝播性や重症度は不明 	—	—	インドで 主に検出
	BN.1	BA.2.75の 亜系統	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免疫逃避の可能性 ○ 感染・伝播性や重症度は不明 	1件	0.3%	不明 国内では 15件確認
	XBB	BA.2と BA.2.75の 組換え体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免疫逃避の可能性 ○ BA.2.75やBA.4.6に比べて、感染者増加の 優位性が高い可能性 ○ 重症度は不明 	2件	0.6%	シンガ ポール, インドで 主に検出 国内では 4件確認
	XBC	BA.2と B.1.617.2 の組換え体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免疫逃避に関する変異は確認されていない ○ 感染・伝播性や重症度は不明 	1件	0.3%	不明 国内では 未確認

出典：感染・伝播性の増加や抗原性の変改が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株について(第21報)(国立感染症研究所 2022年10月21日9:00時点)

 今週新たに確認された変異株